



原爆先生の特別授業を受講して

表

12/15

私はこの原子爆弾が落とされたのはもっとずつと前なのかと思っていました。またまきてる人がいたりして約72年前だということでは人のすしきん？だ。たんだと思つてびっくりしました。映ろうやお話を色々聞いている中で人が「助けて、助けて」という中で助けることのできない兵隊の気持ちになると「つらいな、かわいそう、たな」と思いました。また私だったらまわりの人も助けたいだけと自分の命も守りたいことどうしたらいいかわからなくなりました。私はこの話を聞いていて本当にあつたことだと思つてゾクゾクしていました。このような事は今後おこりうることですが二度とそんなことがあってはいいないからそのために私たちが出来ることは出来るだけやめて二度とあってほしくないと思つています。

そして、このことは決して忘れてはいいないと思つています。なのでこれからもしっかりとおぼえておきたいと思つています。



原爆先生の特^{じゅこう}別授業を受講して

表

私は原爆先生の特^{じゅこう}別授業を受講して「原子爆弾が落とされた時に生きていた人々の苦しみ」がとても良く分かりました。現在でも広島に「原爆ドーム」が残っているのは知っていたのですが、「原爆ドーム」と呼ばれる前の「広島県産業奨励館」という呼ばれ方は始めて聞いてとてもおどろきました。また、始めて知ったことがたくさんありましたが、とてもわかりやすく説明してくれたのですぐに納得することができました。「プラジュートで原子爆弾が落とされた」という言い伝えがあるけどそれはまちがえ」と教わり、覚えておきたいと思いました。クイズがあり、「楽しみながら学習できるっていいな。」と思いました。広島に落ちた原子爆弾で広島市の人口35万人の40%の人が亡くなりました。つまり5人に2人が亡くなったというわけになります。私は「今は平和なのになぜ昔は人の命をうばうようなことばかりおこってしまうんだろう？」と思いました。私が印象に残っている話は「1kgで広島のみちを破壊した」ということです。当時の技術では1kgしかなかった「ウラン」を落とし、広島のみちは破壊されてしまいました。最後に「たくさんを知れて良かった。」と思いました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

原爆先生の授業をしてあらためて原爆の怖さを知りました。
たまた1発の原爆により、広島では、14万人もの多くの命がうば
れてしまったというのを聞きました。この原爆で、大ケがをした人や全身
やかれてしんでしまっている人や、やけどして黒こげになってしまっ
て体のかわがはかれている人だけし、刀いばいという人間には見え
ないくらいの大ケがをしてしまっている人しかいながらたのを聞き
ました。考えているだけでも苦しいし、かわいけれど、戦争中
の人はもってわかったんだらうなと思ひました。
原爆でたおれてしまつた人の中には、親子、親が子どもをた
いていた人もいたということもききました。大七刀な家族が
せくなつてしまうのはとてもかわいそうだなと思ひました。
たまた1kgのばくだんで、教えきれないくらいの人命
をうばい、多くの人を悲しませ、町をばかいい人だと思ひま
した。戦争のはなしをきいて、この時代に生まれてよかつたです。
戦争中の人は食つたいものが食べられなかつたり、家族、
友達とあそんだり生活したいと思ひていてもできなかつた人
が多かつたと思ひます。なので、これから食つた物をまっ
して、友達、家族をもつた七刀にしようと思ひました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

ぼくは、原爆先生の特別授業を受けていろいろと戦争のことを知りました。

まず最初は、原子爆弾を落とす条件 ①直径5km以上 ②平野であること、③今まで空襲がなかった所、という条件がありました。

あと、候補になった都市がありました、①広島 ②小倉 ③長崎、横浜、新がた、京都、が候補に上がったという。

広島に落とされた、原子爆「リトルボーイ」
横ばば3.12m 約4ト、落とされた当時広島の人々はパラシュートで落とされたと思っていたがそれはまちがいで「オゾウチ」という物が落とされた。

原子爆弾のむかい9熱線、衝撃波

放射線というものがある。衝撃波の速さ

毎秒440m 広島市人口35万人 被爆者24万人

死者数14万人、この学習をとまじり戦争が悲しい

ことなどがわかりました。もう一度と戦争はしてはいけないと思いました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

ぼくは今回の学習をして色々なことが分かりました。

1つ目の1つ目はほうくう600mでぼくを殺したということです。

2つ目は昔は日かげがなく太陽があつてしんどくなってしまうということが分かりました。

3つ目はお父さんの原爆くいの場をみんなに伝えられる朗読はすごいと思いました。

ぼくはこの話を聞くかぎり原爆くいはすごくこわいのだねーと思いました。

しないや写真を見せながら話ついたのですごーくいいと思いました。

最後まで親切に教へてくださりありがとうございました。



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

表

ぼくは初め原ばくについてあまり
知りませんでした。

でもこの学習を通していろいろと原ばくについて
分かりました。

例えば「原子ばくだん投下都市の条件です。
1つは「直径5kmを超える」2つ目は「平野で
あること」3つ目は「空しゅうがなかつた」などの
3つの条件が合わないとはだめなんだなと
思いました。

原子ばくだんが落とされたことにより、
広島市の人口35万人に対して死者が14万人
もいて死亡率40%と高くてびっくりしました。
いつも「原ばくだん」といっていた建物の名前は
「広島県産業奨励館」という名前が初めて
聞いておどろきました。

この学習を通して原ばくのこわさを知り
今後絶対におきてはならないことだと
思いました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

ぼくは、原爆先生の特別授業を受講して、始めは原爆はぼくだんを広島におとした、たいたことじないと思っていたけど先生の話を聞いてから原爆は、太陽と同じくらいすごい物だということが分かりました。原爆は、3.12mで約4mというところと、「リトルボーイ」という名前がついているというところが「おどろ」と思いました。「リトルボーイ」という名前の「リトル」というところがきになりました。おどろいたところは、原爆の衝撃波の速度は音の速度より100mも速いといわれています。

この話をつたえてからは、14万人が死亡した中、単独たちと友に生き残り、この世代の人たちはこの話を語りつづけるのはすごいことだと思えます。これがわたしの話をたくさんの人におしえてくれたらいいなと思います。



原爆先生の特別授業を受講して

表

ぼくは原爆先生の授業を受講して池田義三さんはすごい人だなと思いました。この授業でびっくりしたのは原爆による沁がいや 原爆「リトルボーイ」の川よくです。原爆は、高い場所で爆発しても、地上の温度は3000℃で中心部の温度は100万℃と太陽よりも高温でびっくりしました。「リトルボーイ」は、名前がかわいらしいけども、ものすごい川よくで、原爆はものすごくおそろしい物なんだなと思いました。そして、広島県に「リトルボーイ」がおとされてしまったとき、ひばく率は70%で死亡率は40%と、すごく高くてびっくりしました。

最後に、まさのりさんから「リトルボーイ」の10倍、100倍、1000倍以上の原爆を約10000本以上の原爆があると聞いてぼくは「日本に落ちたら日本はあとかたなくなくなってしまうのかな？」としんぱいしてしまいました。でもこのような体験ができてよかったです。



原爆先生の特別授業を受講して

表

私は原爆先生の特別授業を受講して、あつためて、戦争は起こさなほしいなと思ひました。原子爆弾によつてたふさんの人々がせくなり、それにその姿がとて悲慘だと知つて、本當にかわいそうだなと思ひ、その本人や、家族はつらいだらうなと思ひました。また、原子爆弾の仕組みを教へてもらつた時、温度が太陽よりも熱いと知つてとてびっくりしました。それに、原子爆弾の衝撃波はあつゆる建物を粉々になつたり、放射線があつた地上か360kmほどはつれた所に原子爆弾があつても、地上の温度は3000℃になるということを知つて、落つる前にも、さまざま被害があつたなと思ひました。

今回のこの特別授業は、ふたんの社会の勉強や、教科書では知れないよな、その時の状況や、体験をした人の気持ちを知れていい勉強になつたし、戦争の時のことを次の世代に伝えていければなと思ひました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

広島原子爆弾を体験した池田義三さんは、アオから
兵隊になって、いたそうです。私だ、たらすごく大変だ
ろうなと思いました。候補になった都市は広島・
小倉・長崎・横浜・新潟・京都が候補になりました。
その中で一番強くおされた都市は京都だそうです。
京都は人間に必要なものがたくさんあったそうです。
原爆ドームは衝撃で建物の中が空洞になってしまった
そうです。150m先のコンクリートの中にいた人は助
かったという奇跡があったそうです。
原爆中の人々は全身やけどだらけだった
からふっつうにうでをふって歩けないので、手を
ななめ前にして歩いていたそうです。ウランの
重さは1kgだったそうです。当時の技術では
1kgしか無理だったそうです。ウランは
ゴルフ玉の大きさだったそうです。
私ははじめ原爆はそんなにひどいとは思
わなかったけど、話を聞いてすごく大変だ、た
んだとということが分かって良かったです。



原爆先生の特別授業を受講して

表

今から私の72年前に広島と長崎に
 恐ろしい原子爆弾が投下され、一瞬にして
 数十万人もの人が犠牲者となった。両市は石皮かいた。
 日本は世界でただ一つの核兵器の恐ろしさを体験した国
 として「もたず、つらず、もちこませず」という非核三原則を
 決めている。大切な事だと思礼守ってもらいたい。
 先日、北朝鮮のミサイルが発射され、テレビから「アラート」全国
 瞬時警報システム音が流れた。

その朝ひいおはあちんが「胸をしめつけられる感じがする」と言った86歳戦争
 中に空襲や疎開を経験していたけに悲しかったのだと思う。
 原子爆弾の恐ろしさ、悲惨さは言葉に出来ない程で想像を絶する光景
 があったのだと思う。この思いを忘れてはいけないと思った。
 原爆投下命令を受け投下したアメリカ人兵士は
 その後、投下を後悔「投下は間違っていた」と
 口にして、精神病院へ入院させられた。「英彦」と言わ
 れたとされるが戦争により何も得るものはないと思った。
 今回の先生の話を受講して

人が人を尊重し、人として正しく生きる事が大切だと思いました。
 世界の平和を心から思い願いました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

原爆先生の話を聞いて私はとても考えました。タイトルが「7000℃の少年」だ、たことがわかってそこから原爆の名前がわかった時、考えました。タイトルの「7000℃の少年」は原爆の名前「トルボーイ」(小さな少年)なので「原爆のことか」と思いました。話を聞いている時、私は眞徳先生が「つらそうに話しているように聞こえました。きっと父親の大切な歴史を未来にもつなげてほしいのかな」と思いました。原爆先生が当時の入口の様子を話している時、すごくひどいと思いました。はたがずれおち、やけどかひどい、上空で爆発しても地上にひびくえいま、ようは3000℃となにもかをも一しゅんでけしてしまうかがあるというのがこわいです。爆発でつかわれたのが福島第一原発につかわれていたものとは知りませんでした。放射線で色々な人が死んでいくのはとても無さなだと思いました。



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

表

私は原爆先生の特別授業を受講して、
原爆はとてもおそろしくて、もう二度とおきてほしくないなと思いました。

原子爆弾投下都市の条件にあてはまるもの、
広島、長崎、小倉が選ばれました。最初は、
多くの人を京都に落とした方がいいといっていた
けれど、京都はとても重要な物がたくさんあっ
たため、京都に原子爆弾は落としませんでした。
これを聞いて、むこうもいろいろ考えてやっているの
だなと思いました。

それと、原子爆弾は600mでその中心が100万度ある
ことにびっくりしました。

しかも、地面まで3000度もあることにもおどろきました。

原爆の被害者はたくさんいました。

いっしょんで多くの人があはわれる原爆は、
もう二度とおきてほしくないなと思いました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

ぼくは原爆先生の特別授業を受講して原爆で何万人もの人が死んでかわいそうだと思います。

原爆が高さ600mの所にあるとき太陽の6000より高い7000℃といっていたのでそれは死ぬはと思いました。

熱線と衝撃波が同時にきたときは広島県産業奨励館の中にいた人は一瞬でいなくなりました。

この時の広島市の人口は35万人で被爆者数24万人で死者数は14万人もいって死亡率はなんと40%もあったのでびっくりしました。

広島に投下された原爆はリトルボーイというのをはじめて矢叫ました。

もう二度と戦争なんかしないで平和な日本にしていきたいなと思いました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

私は原爆先生からの話を特別授業で聞いて、すごくすごくひどく胸が痛みました。私はこの話を聞く前にも社会の授業で「原爆の事について調べていてその時はまだ「ああ、あの広島とかの原爆ね」とか、「また原爆か...もう社会で」れたの...」とか人事にしか思っていないでして、だから正直この授業にはあまり興味がありませんでした。しかし、実際に授業を聞きはじめてみると、私の想像をはるかにこえた原爆の怖さを実感しました。最初、スクリーンに写し出された資料を見て不思議という感情をもちました。スクリーンの資料には、「7000歳の少年」と上の方に書いてあったからです。そして原爆先生の自己紹介をされた時、今話してくれる人は池田真徳さんでその話の主人公となる人は、その人の父で「すごく活やくした人だと分かってすごく興味をもちました。池田真徳さんは、キヤ体の重加作を上手く使いながら、ゆくり、ゆくりと言話してくれました。90分という長いような短いような時間をこのように使い言話してくれました。授業が終わっても、今日の話が「ずーと、ずーと」豆頁の中に残っていました。だから家に帰ってから、広島や長崎、小倉に爆弾が落ちた事、その事からたくさんの方が亡くなった事をおうちのの人に話しました。すると、私のおじいちゃんが東京も戦争が起きて、防空ごうの中にいたことを言話してくれました。私はその後も、今日の特別授業をきっかけに、戦争ではなく、話し合えば解決しなければならない事、たくさんの方が亡くなるから、戦争等を二度と起こしてはいけない事等を、おじいちゃんやたくさん、たくさん話しました。こういう言話をおじいちゃんや、おうちのひとと話したのも、全て特別授業があったからだと思います。私はこの特別授業を受けて、戦争は二度と起こしてはいけないと思いました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

12/18

私はこの授業を受けて、今では考えが未だに原爆
くのじつたをしりました。7000(の少年と“)のは原爆
くを表して“で、太陽の表面温度よりも、高いというの
にまごとおどろかされた。しかもそのすぐにはいた人は
は痛いと思ってもなく死んでしま。何れもの命が
なくなり、川の水が土から、とうじ、体全に、におま
の人がやけどをおったという事で何とまでい
なごだと思ひました。さうにづいことが兵隊の人
たちで、お普段、おゆることおない死体におま、助け
にも、助けが本ない兵隊の人たちの気持ちか
完全にわかるわけではな(け本ど、おごくひ
なごだと思ひます。私はこの原爆くがまごさ
本た、広島、なが(さ、だけでなく、思ひの人が豪族
がなくなたかおしおくおしおして傷をおい、痛い
という苦しお、に日本中がつつまあることが、二度と起さ
ておくおないし、起さてはいいおない。お改めでおかん
ました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

私は原爆先生の授業を受けて、改めて原子爆弾はおそろしい物だと実感しました。広島は、ワトルボーイと言う、原爆だけで、11万人の死にホルきただけの町となりましたが、生き残っていた、池田義三さんと同じ仲間が人のいたいをまた原爆が落とされるかもしれないのに、色々な所に行き、処理していたのが勇気があって、かっこいいなと思いました。またトラックで移動している時、多くの人々が全身にやけどをおって、助けを求めているのに、そのまま通りすぎて行くのは、とても悲しくて、つらいことだったと伝わってきました。関係の無い、広島、長崎の多くの人の命をうばったアメリカ軍は、本当に許せませんでした。このように、広島、長崎の原爆投下のように、いつ何が起こるか分からないので、じしんの時など、これから何が起こるかなどを考慮していきたいのです。広島や、長崎などのように、他の県にも原子爆弾が落とされないよう願っています。



原爆先生の特別授業を受講して

表

私は原爆先生の特別授業を受講して改めて
“原爆のこわさ”を知りました。特別授業を受講す
る前、私は原爆がきたら川にとびこめば“いい”と思っ
ていました。でも実際はあっさで“川があつくなり、
ゆでた”このようになってしまうと聞いて、とてもおど
ろきました。そして熱線は7000℃で太陽の
6000℃よりもあついのほ っそうもつきませんで
した。イスにすわっていた人が“しゅん”消え
川にとびこんだ人はゆでたこのようになる...
私は原爆をあまく見ていたなと思いました。

祖母の祖父は戦争にいったそうです。戦争に
行く人も、その母も、むすこも、むすめも、その人
に関わっている人みんなが戦争に行くことを
かなしんでいたと思います。命は落とさなく
ても、傷があたり、やけどをあたり... 祖母の
祖父は足が切れた人されたじょうたいで帰
ってきたそうです。

二度とこんなおそろしいことはあってはいけ
ないと思いました。



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

表

・ぼくはこの原爆授業を通して、思ったことがあります。それは、原爆先生(池田さん)がすごいということですよ。

・お父さんの原爆の場をみんなに伝えられる朗読は、すごいと思いました。

・この話を聞くかぎり、原爆は、すごくこわいのななと分かりました。

「父の手や頬が、熱で溶けている。」というのを、そう思うだけで、ゾクゾクとききました。

しほいや写真を見せながら発表していたので、すごく分かりやすかったです。

原爆など、落ちてこない世界になってほしいです。(平和な世界に)



原爆先生の特別授業を受講して

表

原爆先生の授業をして分かったことは、
1945年午前2時約4トンを積んだ原子爆弾
がおとされたとき、私は、びっくりしたし、
そのせいで、死んだ人もいたので、とても悲しい
です。

次に、候補になった都市は、京都で、京都は、
一番強くおそれたり、じょかといわれて、その意
味がよく分かりました。広島に、投下され
たりトルボーイは、300kmの速さで「飛び」
約4トンを「飛び」ました。

私は、最初カエラケイの意味が「お母さん
の名前がエラケイ」というなまえだと分かりまし
た。

「kg」の意味は、ウランの重さで、60kg
のウランを積み、1500発うち、5人に2人が
原子爆弾で死んでしまいました。

感想

これだけ原子爆弾が危ないことが分かりま
した。今日は、きていただきありがとうございます！



原爆先生の特別授業を受講して

表

私は「原爆先生」の授業を聞いて、分かったことは、まず、原爆のおそろしさです。戦争中の日本の人々のくらしは、ただでさえ苦しかったのに、そこに原爆が落とされたことで、生霊が、想像をなくし、ひびかめくれたり、おけどをしたりして、その情景を想像するだけで、私は、おそろしいと思いました。

2つ目は、日本軍の人の行動です。車の荷台に乗ろうとした人に手をさしのべてあげたり、けがを負って動けなかに人に手当てをしてあげたりして、とてもやさしいと思いました。私も、誰かのことを心配い、とあなたのことであって、別の人を助けてあげようと思いました。

太平洋戦争から72年たった、日本は激大きな進化をとげました。今ではあれだけ不足していた食料、衣服も、国民全員がいつでも自由に買えるようになりました。ですが、アフリカなど住んでいる子供たちは、まだまだ足りません。これから、どのような取組を行っていくのかが重要になるのでしょうか。



原爆先生の特別授業を受講して

表

僕は、原爆は社会の常識を破っているから、怖いものがあるから、原爆は怖いものに危険なものであるから、命が無くなったのが等を教えて改めて原爆は怖いなと思いました。原爆先生の特別授業は、説明している際に、それは、何と同じくらいの大きさなのか、何と同じくらいの温度なのか等を教えてくれて、実際にイメージができて、とても分かりやすかったです。

そして問題を出す等をして、盛り上げてくれました。

原爆の被害にあった人が亡くなってし、まうと、原爆について知らない人が出てしまうので、大人になったら原爆とは何か、原爆はどんなに危険なものなのか等を伝えていこうと思いました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

7000℃の少年という言葉を始めに聞いて7000℃の少年は聞いた

ことかなかったのになんだかうなとすごく思いました。

池田義三は、この中でのことかすごいなあ~と思いました。

厚子爆弾投下都市長は条件があるなかで広島からかわれるとは思いませんでした。

アメリカは候補した広島小倉長崎以外に横兵新かた、京都を候補し京都をつよくおしたならなせ広島したのかあまり分かりませんでした。

7000℃の少年が分かりました。

7000℃の少年は「リトルホーイ(広島に投下された原爆)

リトルホーイとは小さな子(少年)という意味でそのリトルホーイが7000℃になり、真空地帯に近い状態になって、7000℃の少年という意味になったことかよく分かりました。

ウラン60kgのうち1kgでゴルフボールと同じ大きさなどいう事かすごいなあ~と思いました。

音までかんぺきですごい人だと思いました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

私は、原爆先生の授業を通して、まさきに思ったことは、「かく」のおそろしさです。人を、何万人、何十万人もの人を一しゅんて殺すことのできる兵器がこの世界に多く出回っていることがとてもおそろしく感じられました。やはり実体験を聞くとおそろしいです。何度か、広島記念博物館に足を運ぶことはありました。祖父母はつれられてでした。二人とも、戦争のころには、とくに生まれていました。しかし、一つを見て、何も言わずに外に出て、墓を一つをながめながら涙をこぼしてしまいました。

私にとって今、もっともおそろしいのは原爆です。今後二度と使われないように、数少ない、被爆国家日本として止めたいです。



原爆先生へ

お言葉よりかかとこつさいます。

ほくか一番びっくりしたことは、火暴弾
かぶくんだとき、大きさが200mにもなる
地面におつちがなにか爆発したから
びっくりしました。

そのぶくんだ表面のおんどが7000℃
にもなるたよりの表面よりが1000℃
も高くてびっくりしました。

そしてそのぶくんだ中心は100万℃もあつて
びっくりしました。

もう一個びっくりしたのは、一回目のときの
爆発したとき、その原爆先生のお父さん
が、火暴弾かくとあかつ目と耳をおさえて
こつでに爆発して、原爆先生のお父さんは
無傷だったけど、10mもそばにたつと
びっくりしました。

原爆はあちがたなものと確信
しました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

15"は、話を聞いて原火暴の音の大きさを失いました。とくに「音はこぼれていって」と言う表現がすごくリアルで恐ろしかった。

あと原火暴の音で言った音があつて恐ろしかったです。

15"は、戦争の恐ろしさを知らなかったで樹木が倒れました。

11"体験をさせていただきありがとうございました。



ぼくは原爆先生の話を聞いて原爆のすごさを知りました。

とくにそう思う、たゞ理由は広島をめぐりめぐりにこました上、広島の人々の約40%の人をこらしたからです。

でも、それは原爆のウラソウの内のおよそ60%しかぼくはついでいなくてももしぜんぶがぼくはついたら、60倍以上のはかいかがでるといってました。

だ"けど"、今の世の中では全ぶ"い"ぼくはつするのでもしその原爆がぼくはつしたら地球の半分ぐらいかい"は"かいされると、思います。

なので"原爆は打たない"と思います。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

学校の学習では分からないうちにおそろしさを覚えることができた。

ウランが1kgしかねんしょうしなかつたのに、広島が焼け野原になってしまったのが、こわかったです。全身やけどをして、皮膚がはがれおちてしまう人がたくさんいてかわいそうでした。

自分かもし、この時代にいたら、と考えるときょうふでしかないです。

こんな中生き残しても次が来るかもしれないというきょうふが、本当にこわいです。

しかし、今回の授業を受けて、人々のがんばりや、努力がとても伝わってきました。

今の平和があるのは、昔の人の努力が実のりて平和があるのかと思います。



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

表

原爆先生の特別授業を受講して、ぼくはすごくたのしみでした。実降に体験した人の話を聞けるのが凄くしみでした。

話を聞いてびっくりしたことは、熱さで体がどろどろになりながらうでを前にだして歩いていることにびっくりしました。

せっかく生き残ったのに熱さで死ぬじゃんってさくたな? と思った。



原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

私は、原爆先生の特別授業を受講して私は 社会では習わなるところの「きょうふ」を感じました。

ウラシマが1Kのみしかぬんしななかったのは、良かったなと思いました。

全身大げんこを負い、そのせいで皮フがはかしくおちている姿を想像すると、

おそろしくてしょうがありません。

でも今、日本が平和なのは、昔の方々が努力してくれたおかげだと私は、

思います。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

じゅこう

表

原爆先生の授業を受けて、僕は戦争といひのは、本当に恐ろしい人だなと思ひました。

実際に体験をした人は、恐怖といひ気持ちだったと思ひます。自分もその場にいたら同い気持ちだったと思ひます。

もう一生原爆が投下されたり、戦争が起こ。こ。こほしくないだと思ひました。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

原爆先生の授業を受けて、
原爆の威力や恐ろしさも
知ることができました。

さらに、原爆を実際に
体験した人がどのような
体験をし、どのような
思いだったのかがわかり、
核兵器は二度と使っては
いけないものだと
思いました。

このような貴重な経験が
できて良かったです。



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

表

ぼくは、原爆先生の授業を受講して
原爆のことがよく分かりました。

なつ会で原爆の授業をしていてそれでは
よく分からないうちも分かりました。

広島市人口... 35万人

被爆者... 24万人

死者... 14万人

死亡率 40%

先生の話しで本当のことがよく分
りました。



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

表

原子爆弾は落とす都市の候補が広島、長崎
以外にもあるのだから、かきまわした
また、爆弾投下都市の選択も個人的に
決められていたのだと聞いています。か
文化財が原因でその都市に爆弾を落と
さないなどということか分かりました。
原子爆弾は太陽の温度より高いと聞いて
当時の人はその暑さで死んだ人がたくさん
いると聞きとてとてもひさんなのだと思います。
私は戦争中は人々は苦しみにたて大変な
時代なのだと思います。しかし、原
爆先生の特別授業を聞いて、当時の人
が私が思っている以上の大変な生活をして
いたのだと改めて知ることができました。
本当にありがとうございました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

私は、この授業を通して、2つのことを学びました。1つ目は、原爆についての知識です。アメリカの爆撃機B29エノラ・ゲイ、リトルボーイ、ラジオソフテなどの米軍機を知りました。また、印象に残った知識は、原爆の温度です。原爆の中心温度「700万℃」、原爆の表面温度「7000℃」、原爆による熱「3000℃」が600m上から降りそそぐことも知りました。2つ目は、原爆の悲痛さです。原爆により、一瞬にして広島市の人の5人に2人死んだこと、一瞬にして、広島市が焼け野原となったことを改めて知ると、今、日本が平和であることを喜ばしく感じ、まだ世界で残っている紛争への批判の思いがこみあげてきました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

原爆のおそろしさをおさを知った。
広島の人口35万人のうち死者
14万人、死亡率40%。というところ
におどろいた。きのこむの大き
さは宇宙のほぼ目の前という大きさ
にとってもおどろいた。7000℃の
少年ということばの意味が分
かった。太陽の熱さより熱い7000℃
ということに、とってもおどろいた。
広島に投下されたリトルボーイ
の原料はウランということが
分かった。



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

表

私は、原爆先生の話を聞いて、改めて原爆はおそろしい物だと思いました。

それに、原爆先生のお父さんがきせき白く、原爆から生きのびらえていた事がすごいと思いました。

原爆先生の話を聞いていると、当事の原爆でけがした人の、けがの事を聞いていると、とても生々しく、背中がゾッとたりました。

しかも原爆で死んだ人の数が14万人もいて、すごい大勢の人が死んだんだなと思いました。



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

表

原爆先生の特別授業を受講して、
当時のつらさが悲惨さがよく伝わってきました。特に軍事トラックで爆心地に向かうときの話です。助けたいのにも助けられないつらさ、悔しさがほくにも分かりました。そして核爆弾の強さが衝撃的でした。そして「リトルボーイ」でウラニウムが本当は60kgあるものを1kgしか使わずに広島を一時的な壊滅に追い込んだこと、そして今それよりも強い核爆弾が作られていることとても貴重な話を聞かせてもらいました。そしてこの世界が一時的な平和ではなく永続的な平和をねがいます。



原爆先生の特別授業を受講して

表

今日の特受業に、^{じゅこう} 分かったことが何こもありました。1つ目は軍隊の人が人を狙わせるために手をさしのべたりしたりしてすごく大変な状態なのに動いている人を三つおいてという受持者が話し合っていて分かりました。2つ目は空しゅうがおあった後も病をたかたりしたことです。おあった後も放射線のせいで病気になってくるし、でいても病をたかかう率加すびいけよと思いました。3つ目は原はくはどんなにおそろしいものなのかです。たった1kgのものだけで広島が壊れるという原はくはどんなにおそろしいものなのか、それに加って3つ加ってはおためごとで分かりました。4つ目は今につたおれるまでにどのまに長い年月があたかた原はくから生き残り人に伝えるには人に伝えるという礼んさ? みたいな物のおかけで今に伝えたのたびと分かりました。今日のまうた「原爆先生」が300という大空しゅうについてはこれからお次から次へとつたえていかねければよと思ひました。たくさんのかことがおれよよかたです。



原爆先生の特別授業を受講して

表

原爆先生の話を聞いて私は、何處も鳥肌がたちました。

原爆のおそろしさ、降ってきたときの恐怖、絶望感、全

てが伝わってきました。実際に私はそれを体験して

ないから本当の全てはわかりませんが、実際に体験

したら私は原爆先生のようにたえられないと実感

しました。

生き残っても死体さがしとかどこまで絶望が広が

っていくのか、想像もできませんでした。

これからの日本でまたこのような戦争がおこると

とすごく考えさせられました。

今の日本が幸せなのはあの戦争があつてこそなの

かな、と思います。

これからも日本は平和であつてほしい、と思いました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

原爆先生の授業を受けて、原爆の恐しさを知りました。

原爆のことは、社会の授業やテレビで知っています。けれど、そこまで詳しく知らなかったことがたくさんありました。話を聞いて、被爆者や戦争で一生懸命戦った人などの人は今の私達に「もう戦争はやってはいけない」ということを教えてくれた」と私は思っています。

今の原爆ドームはそれを教えるために大切に残っているんだなと思いました。

私は今回の授業を受講して、戦争がない、平和な世の中になることを願っています。



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

表

私は原爆先生の話を聞く前の原爆の印象は大きな爆発がおき町全体が焼け野原になったという印象でした。私の予想していた事とだいたい合っていたけど私が思っていた以上に悲惨な状況でおどろきました。私が今回話を聞いて一番おどろいたことは2つあります。1つ目は原爆投下された近くにいる人たちが助かった人はほとんどおらず、少しはなれていた所にいた人でかろうじて生きていた人も全身やけどで助けを求め人が大勢いました。助けてあげようと手をひばりあげようとすると皮がズルリとはがれて激痛で泣き叫ぶ人が大勢いたそうです。2つ目は落ちてきた原爆に含まれていたウランという物質の量です。本当は60kgあったウランですがそのうちの1kgしか燃焼しなかったそうです。でもウランたった1kgで広島市1つが焼けこけてしまうから60kg全部が燃焼していたら大変な事になっていたということです。



原爆先生の特別授業を受講して

表

・私は原爆先生の特別授業を受講して、

そこにいた人たちがどれほどつらかったり、苦しかったのかは

分からないけど、原爆先生の話を聞いて

原爆はいつくるのかどに落ちるのかも分からない

きょうふや不安にもし自分がいつたえられるのか

考えると私は手足のふるえがとまりませんでした。

・そして、私は今生きていて、その原爆にあつた人たちの

話を聞いて、ついでに原爆は人間や命をもっている

場所には落としてはいけないと思いました。

・私がそう思った理由は、考えている事や

住んでいる場所が違ってもみんな同じ人間で

命をもっているからです。

・私はどんな事があつても、原爆は絶対にやめてはいけない

事だつとあらためて思いました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

タイトルの7000°Cの少年という意味は広島に
投下された原爆「リトルボーイ」のことではなかつた
んじゃないか。原爆先生の父さんが体験した話を
聞いている中で被爆者の様子を聞いて
いたけれど恐ろしく寒気がして、想像しただ
けでも原爆はこの人類にあってはならない兵
器だと思、てしまいました。一瞬で約14万人
の命をうばった広島、原爆の1千倍もの原爆が
一万もあるということはとても恐ろしいことご
す。僕は原爆先生の授業も受けてこんな
恐ろしさを他の人に伝えていきたいと思、た。



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

表

私は授業で原爆でたくさんの方が死んだと知、
た時ただ死んだとしか思、ていなか、たけど、実際
の話を聞いてただ死んだんじ、なくて苦しみなから
死んだんだということが分かりました。

話を聞いていると周りの人が助けてとトラ、ワに乗
ろうとしてくる様子や手をななめにしながら歩く
様子が想像できてとてもこわかったです。話を聞
いているだけでこんなにこわいのだから実際はも、
とこわいのだろうなと思いました。

教科書では分からない原爆のこわさが分か、
て良かったです。



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

表

原爆先生の授業は主に軍隊に所属していたお父さんの体験をもとにした話でした。

原爆のことは今まで全然しりなかったけど、今回のことをきっかけに知識も深まりました。原爆に興味をもつことができました。

特に知覚になったのは、2つあります。

1つ目は原爆による爆発したウランです。

もともと、原爆には約50kgぐらいのウランがのせてありました。

しかし、爆発したウランの重さは、1kgだけでした。

2つ目は爆発による被爆者の数です。

広島市の人口は35万で、被爆したのは24万です。更に死亡した人数は14万で実に40%です。もし50kg程度のウランが爆発したら、ものごいかい大きかったと思います。

このように原爆は一発でもここまでのがいをもたつたのです。なので原爆は絶対に使ってははいけません。



原爆先生の特別授業を受講して^{じゅこう}

表

私は原爆先生の授業を聞いて、原爆のおそろしさを改めて知りました。

そのことを思った理由は熱線という言葉です。爆弾の中心の部分が、100万℃あって、外周の温度が7000℃もあります。そこから600m地点の地面の温度でも、300℃あり、半径500mの所では、すべての物がとがさされました。そして人間も、体中の水分が蒸発してなくなり、人間もとがさり、その場には、黒くなった、あとが残っていてそんな近くにいたらすぐ死ぬ悲しさを知りました。広島市の人口の、 $\frac{2}{5}$ の確率の人(40%)が広島原爆で亡くなり、かわいそうと思ったり、かなしいと思ったり人がたくさんいたんだなあ、この授業を聞いて分かりました。

原爆について教えてくださりありがとうございました。